

外国語科学習指導案

第5校時 児童数 31名

第5学年4組 指導者 中島 典子

ALT Marcel Williams

1 単元名 Unit 6 Where is the library?

2 単元の目標

- ・ ものがある場所や道案内を聞いて位置を理解し、道案内をしたり、道案内の語句や表現を文字で確認したりすることができる。 (知識及び技能)
- ・ Fantasy Springs の施設で行きたい場所に行くために、道をたずねたり答えたりすることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- ・ Fantasy Springs に行きたい教師や友達のために、反応を見ながら語句や表現を工夫して道案内しようとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元観

(1) 単元について

本単元は、Unit6「Where is the library?」を基にして、児童の興味がかき立てられる2024年6月にオープンしたディズニーシーの新エリア Fantasy Springs を案内する内容に再構成したものである。友達とグループを組んで道案内の仕方を相談したり、ゲスト役とキャスト役の役割を担ったりすることで、基本的な道案内の表現に慣れ親しむ。本単元のゴールを「教師に Fantasy Springs の道案内をする」と設定することで、目標に向かって、児童一人一人が主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿に迫っていきたい。

(2) 児童の実態について

本学級は、男子16名、女子15名の計31名である。児童はこれまでに、誕生日や欲しいものについて友達同士で尋ね合ったり、理想の時間割や憧れの人について発表したりするなど、自分の考えを伝える学習を積み重ねてきている。外国語に対するアンケートの結果は、「外国語の授業が好きだ」、「英語で先生や友達とやり取りすることは楽しい」という設問で、どちらも90%の児童が肯定的な回答をしており、児童は外国語に親しみをもっていることがうかがえる。しかし一方で、「英語で先生や友達とやり取りすることができる」と答えた児童は80%とやや減少しており、自分の意見に自信がもてなかったり、発話に対して恥ずかしさや苦手意識を感じていたりすることが考えられる。

そこで本単元では、スモールトークやデモンストレーションの際に施設でできることや道案内で使える英語表現のヒントを与えたり、全体からグループ、ペアと学習形態を小さくしたりすることで、基本的な道案内の表現に慣れ親しみ、自信をもって伝え合えるようにする。

(3) 研究主題との関連

英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童を育てるために、「教師に Fantasy Springs の道案内をする」という場面を設定した。訪れたゲスト役にキャスト役が道案内する活動で、基本的な道案内の表現に慣れ親しみ、単元の後半で Fantasy Springs に行きたい教師に、現在地か

ら施設への道案内の仕方や、施設でできることを4人グループで考え、伝える活動を行う。振り返りシートで毎時間単元の目標を確認し、児童の伝えたい、やってみたいという意欲を高めていく。(仮説1)

相手のことを考えて、自分の思いや考えを表現する児童を育てるために、ゲスト役とキャスト役のペアになって道案内する活動の中から「4つの大切」を意識したやり取りを取り上げて大いに称賛する。また、児童同士で互いのやり取りのよさを認め合うことで、相手を意識したやり取りへの意欲を高める。(仮説2)

英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを児童が実感できるように、外国語科の授業で **Fantasy Springs** にちなんだ歌を歌ったり、教室や廊下、階段に授業に関係した英語を掲示したりするなど、日常的に英語表現に触れる機会を増やす。(仮説3)

以上の取組により、本校の研究主題である「相手意識をもち主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成～英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して」に迫りたい。

4 単元計画及び評価計画（総指導時数7時間）

聞く…**聞** 読む…**読** 話す（やり取り）…**や**
話す（発表）…**発** 書く…**書**

時	目標（◆）と主な学習内容	評価			
		知	思	態	評価規準【評価方法】
1	◆アニメーションを見て、話されている内容を理解し、語彙に触れる。 ・【Small Talk】冬休みにいきたい場所について話題に出すことで、単元の目標を一緒に考え設定する。 ・【Let's sing.】映画「Frozen」より「Let It Go」 ・【Let's listen and point.】教科書の施設に関する絵を見て、聞こえてきたものを指しながら確認する。 ・【Story】（場面）公園で、道案内の会話をする。アニメーションを視聴して、場面と話題を捉える。 ・振り返り				本時では、目標に向けた指導は行うが、記録に残す評価は行わない。
2	◆ものがどこにあるかをたずね合う。 ・【Let's sing.】映画「Frozen」より「Let It Go」 ・【Let's review.】町のカードを使って、施設名の復習をする。 ・【Let's watch.】アニメーションの一部を	や			・ Where is …? や It's on / in / under / by … などの表現や関連語句を理解し、室内のものについて、それがある場所などを伝え合う技能を身に付けて

	使って、Step1 の表現を確認する。 ・【Let's listen.】 Picture Dictionary で語彙を確認する。登場人物の会話から、何が室内のどこにあるかを聞き取る。 ・【Let's try.】 自分の理想の部屋を考え、ペアになってものがどこにあるかをたずね合う。 ・振り返り				いる。 【観察・振り返りカード】
3	◆道をたずねたり、答えたりする言い方を知る。 ・【Let's sing.】 映画「Frozen」より「Let It Go」 ・【Let's watch.】 アニメーションの一部を使って、Step2 の表現を確認する。 ・【Let's listen.】 Picture Dictionary で語彙を確認する。道案内の会話から、どの施設が地図上のどこにあるかを聞き取る。 ・【Let's try.】 教室を町に見立てて、ゴールまでの道案内をする。 ・振り返り	聞			・ Where is ...? や Go straight for ... Turn right / left ... などの表現や関連語句を理解し、町の施設や場所への道順などの具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】
4	◆道をたずねたり、答えたりする。 ・【Let's sing.】 映画「Tangled」より「I See the Light」 ・【Let's play.】 Simon says を使って、Step2 の表現に慣れる。 ・【Let's try.】 自分が欲しい施設を地図に加え、ペアになってそこまでの道案内をする。 ・【Plus One】 相手を変えて、道案内をし合う。 ・振り返り	や			・ Where is ...? や Go straight for Turn right / left ... などの表現や関連語句を理解し、町の施設への道順などを伝え合う技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】
5	◆Fantasy Springs の道をたずねたり、答えたりする。 ・【Let's sing.】 映画「Tangled」より「I See the Light」 ・【Small Talk】 Fantasy Springs の道案内をする。施設の名前と道案内の表現を確認する。 ・【Let's try.】 Fantasy Springs の地図を見	や			・ Where is ...? や Go straight for Turn right / left ... などの表現や関連語句を理解し、Fantasy Springs の施設への道順などを伝え合う技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】

	て、ペアになって道案内をする。 ・【Plus one】相手を変えて、道案内をし合う。 ・振り返り				
6 (本時)	◆施設でできることを調べて、簡単な語句や基本的な表現を用いて Fantasy Springs の道案内をすることができる。 ・【Let's sing.】映画「Tangled」より「I See the Light」 ・【Let's review】道案内の始めと終わり、施設名、施設でできること、道案内の表現の確認をする。 ・【Let's speak.】Fantasy Springs の地図を見て、ペアになって道案内する。 ・【Plus one】相手を変えて、道案内をし合う。 ・振り返り		や		・ Where is …? や It's on / in / under / by … や Go straight for … Turn right / left … などの表現や関連語句を理解し、Fantasy Springs の施設について、それがあある場所や道順などを伝え合う技能を身に付けている。 【観察・振り返りカード】
7	◆教師に Fantasy Springs の道案内をする。 ・【Let's sing.】映画「Tangled」より「I See the Light」 ・【Let's speak.】Fantasy Springs の地図を使って、アトラクションやホテルを案内する。 ・振り返り 学習を振り返り、工夫したことや次に生かしたいことを確認する。		や	や	<思考・判断・表現> ・ Where is …? や It's on / in / under / by … や Go straight for … Turn right / left … などの表現や関連語句を理解し、Fantasy Springs の施設について、それがあある場所や道順などを伝え合う技能を身に付けている。 <主体的に学習に取り組む態度> ・ 簡単な語句や基本的な表現を用いて道案内をしようとしている。 【観察・振り返りカード】

5 本時の指導

(1) 題目 クラスの友達と **Fantasy Springs** の道案内をし合おう。

(2) 本時の目標

- ・施設でできることを調べて、簡単な語句や基本的な表現を用いて **Fantasy Springs** の道案内をすることができる。(思考・判断・表現)

(3) 授業の観点

- ・デモンストレーションの際に、児童の考えを引き出しながら、施設でできることや道案内で使える英語表現のヒントを与えたり、全体からグループ、ペアと学習形態を小さくしたりしたことは、児童が基本的な道案内の表現に慣れ親しみ、自信をもって伝え合うために効果的であったか。
- ・中間振り返りで「4つの大切」を意識したやり取りを取り上げて称賛したり、児童同士でやり取りのよさを認め合ったりしたことは、児童一人一人が相手意識をもち、伝え方を工夫して道案内するために効果的であったか。

(4) 本時で慣れ親しませたい言語材料

○Where is …? It's on / in / under / by ….

○Go straight for …. Turn right / left ….

(5) 展開 (6 / 7 時間) ◎児童指導上の留意点 ※人権教育上の配慮 ☆研究主題との関連

過程及び児童の活動	学級担任の活動	ALT の活動	指導上の留意点
1 あいさつ・歌 S : Happy. 2 単元の目標と本時のめあての確認 【Today's goal】 クラスの友達と Fantasy Springs の道案内をし合おう。 3 活動 ① 教師の会話を聞く。 S : Welcome S : Ok S : できること	・英語であいさつをし、英語の歌を歌う。 Hello, everyone. Let's sing a song. ・本時のめあてを確認する。 ・HRT と ALT で見本となる活動を見せ、見通しをもたせてから活動に入る。 Great. Where is it? Go straight for one block. Turn right at the corner. Go straight for one block. Turn left at the corner. Go straight for two blocks. I can see it on my left. Ok? Thank you! ・前時との違いを確認しながら、道案内で使う語句や表現を確認する。 ・児童が自信をもって	・英語であいさつをし、英語の歌を歌う。 How are you today? ・HRT と協力して、デモンストレーションを見せる。 Welcome to Fantasy Springs. This is Popcorn Wagon. You can eat roasted beef popcorn. Go straight for one block. Turn right at the corner. Go straight for one block. Turn left at the corner. Go straight for two blocks. You can see it on your left. Ok! ・発音や活動の支援をする。	・英語で元気よくあいさつをすることにより、活動への意欲を高める。 ・児童とやり取りし、児童の意欲を引き出しながら、本時のめあてを設定していく。 ◎積極的に発話できない児童も自分の意志を表示できるように、全員が声を発する機会を設ける。 ・HRT と ALT のやり取りでは Fantasy Springs の地図を使いながら例を挙げ、自分の考えを表現するモデルとなることで、見通しをもって活動できるようにする。 ◎つまづいている児童を支援する。

② 教師と道案内の確認をする。 ③ 4人の班になって、施設でできることや道案内の仕方を考える。 ④ キャスト役のペアとゲスト役のペアに分かれて、道案内の練習をする。 ⑤ 中間振り返り ・4つの大切を意識して活動できていたか確認する。 ⑥ ペアで移動して、他の施設についても道案内をしよう。 4 本時の学習の振り返り 5 あいさつ S : Let's finish English class.	道案内できるように、ヒントカードを黒板に貼る。 ・デモンストレーションを行い、活動のやり方を示す。 ・発音や活動の支援をする。 ・中間振り返りを行い、4つの大切を意識して活動しているグループを称賛する。 ・本時で何ができたのか、次に何をもっとよくするか書くよう助言し、何人かの児童に発表させる。 ・次時の予告 See you.	・デモンストレーションを行い、活動のやり方を示す。 ・発音や活動の支援をする。 ・記入の様子を見守る。 See you.	☆4人で互いに教え合いながら伝える活動を行うことで自信をもてるようにする。 ◎小グループを設定し、分からないことや英語で言えなかったことを安心して聞けるようにする。 ※友達のよかった点を発表してもらい、よさを認め合う雰囲気をつくる。 ・次時への意欲を高められるようにする。
---	---	--	--

評価＜評価の観点＞【評価方法】 施設でできることを調べて，簡単な語句や基本的な表現を用いて Fantasy Springs の道案内 することができる。 ＜思考・判断・表現＞【観察・振り返りカード】 （おおむね満足できる状況） 施設でできることを調べて，簡単な語句や基本的な表現を用いて Fantasy Springs の道案内 をしている。 （十分満足できる状況） 施設でできることや道案内の表現を工夫して，簡単な語句や基本的な表現を用いて Fantasy Springs の道案内をしている。 （おおむね満足できる状況に達していない児童への手立て） 英語で表現できるように，個別に表現の仕方を指導する。			

5年生 「Unit6 Where is the library?」

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

【単元のゴールを児童と共有】

英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組む児童を育てるために、「教師に Fantasy Springs の道案内をする」という場面を設定した。単元の前半には、訪れたゲスト役にキャスト役が道案内する活動で、基本的な道案内の表現に慣れ親しませた。単元の後半では Fantasy Springs に行きたい教師に、現在地から施設への道案内の仕方や、施設でできることを4人グループで考え、伝える活動を行った。授業の始めと終わりに振り返りシートで毎時間単元の目標を確認し、児童の伝えたい、やってみたいという意欲を高めていった。



Unit 6 単元のゴール
中島先生に Fantasy Springs の
道案内をしよう。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

【「4つの大切」を意識させるフィードバック】

相手のことを考えて、自分の思いや考えを表現する児童を育てるために、ゲスト役とキャスト役のペアになって道案内する活動の中から、「4つの大切」を意識したやり取りを取り上げて大いに称賛した。また、児童同士で互いのやり取りのよさを認め合うことで、相手を意識したやり取りへの意欲を高めた。

4つの大切を
意識していた
グループの発表



Smile
Eye Contact
Clear Voice
Response

「笑顔で、うなずきながら話しています。」
「目を見て、聞きやすい声で話しています。」
「ジェスチャーで分かりやすくしています。」

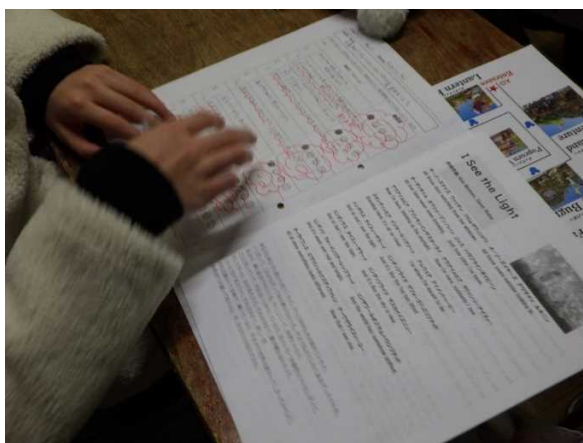
その後の発表

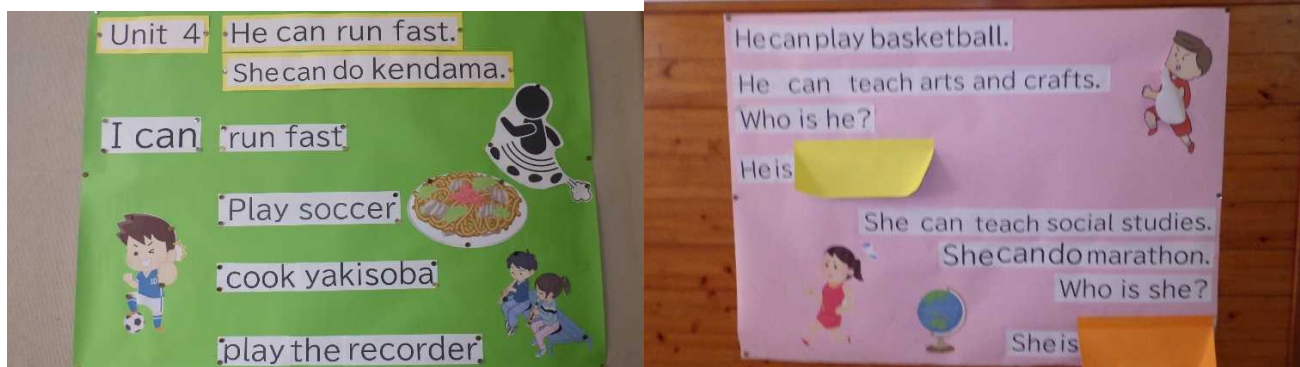


(3) 英語に慣れ親しみ，伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

【歌や掲示物で日常的に英語表現に触れる機会を増やす】

英語に慣れ親しみ，伝え合う楽しさを児童が実感できるように，外国語科の授業で **Fantasy Springs** にちなんだ歌を歌ったり，教室や廊下，階段に授業に関係した英語を掲示したりするなど，日常的に英語表現に触れる機会を増やす。





2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○ゲスト役とキャスト役の役割を担ったりするなど、目的・場面・状況を具体的に設定したことで、児童が相手を意識して主体的にコミュニケーションをとる姿が多く見られた。

●アウトプットの時間が多く取れたのはよかった。さらに言語表現の幅を広げるために、スモールトークのさらなる充実や言語表現の例示を増やすなど、指導計画の中に意図して取り入れる工夫が考えられる。

(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

○「4つの大切」を意識したスモールトークを行ったり、ゲスト役とキャスト役のペアになって道案内する活動の中から、「4つの大切」を意識したやり取りを取り上げて大いに称賛したりした。児童同士で互いのやり取りのよさを認め合うことで、自信をもって自分の思いや考えを表現することができる児童が増えた。

●相手を意識した表現には個人差があり、相手が何を言ったのか分からない時に聞き返す反応や、言ったことが伝わっていない時に別の表現に変えてみるなどの工夫ができるとさらによい。高学年では、言語表現の幅を広げることも相手を意識した表現の一つである。豊かに表現するために、言語表現の工夫が見られるやり取りも取り上げるようにするとよい。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実現するための工夫（仮説3）

○毎時間、Fantasy Springs にちなんだ歌を歌ったことで、児童は英語の言い回しに慣れ親しみ、楽しい雰囲気での授業を始めることができた。

●児童が安心して授業に臨めるように、歌詞カードにカタカナ表記を付けることにしたが、英語の歌では、サビ→1番のみなど、耳から覚えることで、英語のみの歌詞カードを使用することが望ましい。